

熊本大学広報誌

熊大通信

vol. 88
2023 Spring

巻頭特集 学長×学生座談会

教えて！小川学長！

～学生に伝えたいこと、学生が聞きたいこと～

特集Ⅰ

ともに「ひらく」

企業連携で「新時代へ！」

特集Ⅱ

未来を一緒に考えよう！

熊本大学のキャリア支援



Zakura



第五高等中学校本館 1889(明治22)年頃撮影
本館正面側の全容と化学実験場の階段教室部分、本館の後方に建てられた事務室棟の正面、
習学寮の屋根が写っている。

知の
至宝



第四代校長 中川 元
1898(明治31年)撮影
写真の台紙には箔押しで
R. Tomishigeとある。



福岡県出身生徒の同郷会の送別写真 1893(明治26)年7月撮影
写真の裏書きに撮影時期と富重写真所で撮影したことが記されている。
生徒は修猷館の出身者と思われる。場所は富重写真所の屋外写場である。

第五高等学校と富重写真所

これらの写真は、竣工間もない第五高等中学校の建物、第四代校長中川^{はじめ}元の
ポートレート、生徒たちの同郷会の送別写真である。

撮影者は、熊本市内の明十橋通りに写真所を構える写真師富重利平^{とみしげりへい}。長崎で写真
術を学び、上野彦馬の下で修行を重ねた。郷里の柳川で開業したが、需要が少なく、
東京に進出する足がかりとして熊本へと移った。当時の熊本は九州の中心として
栄え、写真の需要も多かったため行政や軍の関係者から慰留を受け、熊本で最初の
写真館として、この地で開業することになった。

19世紀半ばにヨーロッパで発展した写真術は、幕末から明治初期にかけて日本
にもたらされた。それをいち早く会得した写真師と呼ばれる人々の手によって国内
に広がっていったが、富重利平もその一人である。

その後、熊本市内でも写真館の数は増えていくが、富重写真所と第五高等学校の
関係は深く、建造物の写真や卒業記念、送別記念などの集合写真、教授陣や生徒た
ちの個人的な写真など様々な写真が、利平と二代目^{とくじ}の徳次によって撮影された。

文 藤本秀子（五高記念館）

※「熊大通信」のバックナンバーはWebでもご覧いただけます。

熊大通信

検索





※ものづくりフェアの木工教室の様子

未来へつなぐ。 — 熊本大学とSDGs —



私たちは
熊本県SDGs
登録事業者です。
©2010熊本県くまモン



熊本大学では、不登校児童生徒への支援や災害地域への教育支援など、子どもを取り巻く現代的教育課題に長く取り組んできた。その手法として音楽や美術、体育・技術・家庭などの実技科目を活かそうというのが「現代的教育課題への実技教育による研究事業」だ。スケッチ大会やものづくりフェア、体育教室、コンサートなど、手を動かし、体験する中で生まれる達成感や、人間の根本的な驚きは、多様性の中で生きる子どもたちの学びと成長の機会を支えている。

大学院教育学研究科

松永 拓己 教授

MATSUNAGA Takumi



CONTENTS

- 03 巻頭特集 学長×学生座談会
教えて！小川学長！
～学生に伝えたいこと、学生が聞きたいこと
 - 05 特集Ⅰ とともに「ひらく」
企業連携で「新時代へ！」
 - 11 研究室探訪 史料を集め、読み解く力を身につけて
歴史の楽しさを子どもたちに伝える人材に
教育学部社会科教育日本史研究室
春田 直紀 教授
 - 13 特集Ⅱ 未来を一緒に考えよう！
熊本大学のキャリア支援
 - 17 卒業生ジャーナル
 - 19 KUMADAI TOPICS
 - 22 熊本大学基金よりお知らせ
- 表紙 / 【原画】大学院教育学研究科 松永 拓己 教授
桜舞う五高記念館

熊本大学広報誌 熊大通信 vol.88

※皆さまのご意見・ご感想をお寄せください。

〔発行〕国立大学法人熊本大学
〒860-8555 熊本市中央区黒髪 2-39-1
Tel.096-342-3119 Fax.096-342-3110
(総務部総務課広報戦略室)
sos-koho@jimui.kumamoto-u.ac.jp

〔編集〕熊大通信編集委員会
茂木 俊伸／委員長 大学院人文社会科学研究部(文学系)
安高 啓明／大学院人文社会科学研究部(文学系)
松永 拓己／大学院教育学研究科
松永詩乃美／大学院人文社会科学研究部(法学系)
原岡 喜重／大学院先端科学研究部(理学系)
黒田 雅利／大学院先端科学研究部(工学系)
坂梨 京子／大学院生命科学研究部(保健学系)
首藤 剛／大学院生命科学研究部(薬学系)
濱洲 里美／総務部総務課広報戦略室

〔制作〕株式会社 談

※取材にあたっては、基本的な感染防止対策をとった上で実施し、
撮影時のみマスクを外しております。

※記載の職名、学年等は取材時のものです。

熊本大学 学長
小川 久雄



OGAWA Hisao

SUZUKI Rio



KONOMI Naoka



ZOUZA Haruka



熊本大学学生広報スタッフ

蔵座 晴香

文学部コミュニケーション情報学科3年

鈴木 理桜

文学部コミュニケーション情報学科3年

許斐 渚央佳

文学部総合人間学科1年

ところ。皆さんは、熊本大学が大きく変わるときにいますよ。

鈴木 昨年は文学部にも「国際マンガ学教育研究センター」ができました。

小川 学問としてマンガをテーマにした研究センターは国立大学で唯一。日本のマンガは海外からも非常に注目されています。全く新しい学問体系ができて、ここから面白いことが始まるのではないかと期待しています。

蔵座 伝統がありながら、最新の学問も学べるというのはいいですよね。私たちがいるコミュニケーション情報学科も全国的に珍しく、他ではできない学びができています。

友だちを大事に、グローバルな人材を目指してほしい

許斐 このみ 学長が人生で大事だと思われることはなんですか？

小川 卒業して一番大事だったと思うのは友だちでした。学生時代の友だちとは今も交流があります。何かをやるうと思つたとき、彼らが助けてくれました。

それから、どんな道に進みたいかをしっかりと考えること。そのために何を今やったらいいかを考えて、学生時代にとことんやってほしいですね。私もやりたいことを見つけたら、そのためにいろいろな努力をしました。だから周囲の人や環境が支えてくれたんだと

思います。

鈴木 私たちは新型コロナウイルスの影響で入学式もなく、授業はすべてオンラインで始まりました。他学部との交流もなかなかできないので、友だちがなかなかできなくて。

小川 昨年は3年ぶりに学園祭である「紫熊祭」が対面で開催されましたよね。学部を超えて取り組むイベントもこれから出てくると思うので、積極的に参加してもらいたいですね。やっぱり自分で積極的に動かないといけません。

蔵座 熊本大学の学生には、どんな人になってほしいと思われませんか？

小川 グローバルな人材になってほしい。「熊本大学の学生は英語力があつて、データサイエンスのスキルがある」と言われるようになるのが目標です。これからはこの2つの知識がどこでも必要になります。オンラインで利用できる英語の教材などもあるので、ぜひ受講して、実用的な英会話能力を身につけてください。データサイエンス力も全学部で身につけられるようにプログラムを充実させていきますので、ぜひ活用してください。

※1・2

設置構想中。

設置計画は予定であり、変更が生じる可能性があります。

※3

学部等連係課程制度に則った学部相当の教育組織（学上課程）



教えて! 小川学長!

学生に伝えたいこと、 学生が聞きたいこと

2024年4月の新学部組織開設など大きな変革の時期にある熊本大学。

どんな大学を目指し、どんな学生になって欲しいのか、

熊本大学学生広報スタッフが小川久雄学長にインタビューしました。

小川学長が伝えたい、学生生活の過ごし方も伺いました!

歴史も研究も
どこにも負けない魅力がある

蔵座 地方大学である熊本大学。その魅力はどんなところにあると思われますか?

小川 私も熊本大学の出身ですが、歴史的に有名な先生や卒業生がいるだけでなく、いろいろな機関や部署に卒業生がいることに驚きました。そんな人と交流できるのは魅力ですね。熊本大学ならではの研究も多いです。永青文庫やKUMADAIイメージシウム合金のほか、半導体研究も盛ん。医学部や薬学部にも特徴的な研究をしている人がたくさんいます。

もう一つ、他大学から来られた方からは「大学らしい大学」だとよく言われます。歴史的な建物があり、周辺の街が落ち着いている。そんな環境も魅力だと思います。

鈴木 半導体のお話が出ましたが、今度、新しい学部組織ができるそうですね。

小川 2024年4月に「情報融合学環^{*1}」と「工学部半導体デバイス工学課程^{*2}」の開設を計画しています。情報融合学環は75年ぶりの新学部開設で、データサイエンティストを育成します。文理問わず、ますますデータサイエンスの能力が必要になるため、将来どういった分野でも活躍できるよう、データサイエンスをベースとした文理融合型のカリキュラムを展開します。今、熊本は半導体産業の集積が進んでいます。社会的にも求められている中で、今こそ改革の時と取り組んでいる

連携1 熊本大学 × 株式会社ジャパンシーフーズ

パルスパワー技術で 寄生虫アニサキスから生食文化を守る

食中毒の原因になることで知られる、魚の寄生虫アニサキス。
魚を生で食べる食文化がある日本では、大きな問題となっています。
この課題解決に水産加工企業とともに挑んだのが、
産業ナノマテリアル研究所の浪平隆男准教授です。

魚の身に影響を与えない
マイクロ秒の超巨大電力

魚に寄生するアニサキス。
魚を冷凍するか火を通せば死滅しますが、生のまま食べた魚の中に生きたアニサキスがいると、人は激しい食中毒を起してしまいます。

このアニサキスを、魚に火を通すことなく死滅させる装置を、株式会社ジャパンシーフーズ（本社・福岡県）と共同開発したのが浪平隆男准教授です。浪平准教授の研究テーマは、非常に大きな電圧を、100万分の1秒であるマイクロ秒から、1億分の1秒であるナノ秒という瞬間的な時間だけ発生させる「パルスパワー技術」。これを応用したパルスパワー殺虫装置を使うと、アジやサバの身にほとんど影響を与えず、アニサキスを殺すことが可能です。

「連携のきっかけは、私の研究の話を知ったジャパンシーフーズさんがコンタクトを取ってこられたこと。アニサキスを駆除するために様々なことを試してきたけれど、解決策が見つからない、という

ことでした」と浪平准教授。共同開発はすぐに始まり、約3年をかけて、100%死滅するパルスパワーの条件を検証。ジャパンシーフーズでは2021年秋からパルスパワー処理をした生のアジの試験販売を開始しています。

各地に育まれた食文化を
絶やすことなく後世へ

アニサキスは冷凍をすれば死滅しますが、解凍後に味が落ちるといふ課題があります。「ジャパンシーフーズさんの取引先では、安心であれば生がほしい、というところが多く、それに応えることができませんでした。今は処理数を増やす装置を開発しています」。

他にも、熊本県の馬肉や、青森県のシラウオなど生で食べるものの害虫駆除について相談を受けているほか、海外との連携も始めています。「ラオス中南部には、生魚や発酵させた魚を食べる食文化がありますが、タイ肝吸虫という寄生虫が胆管がんを引き起こすことが知られています。日本の国立研究開発法人国立国

際医療研究センターが中心となるプロジェクトで、パルスパワー技術を使って、この寄生虫を死滅させる装置の開発研究が実施されることも決まっています」。

浪平准教授は「冷凍がダメというわけではなく、生のままでも大丈夫という選択肢を残すための技術開発。日本の生食文化をはじめ、様々な土地や国の食文化を後世にも残したいと考えて研究を進めています」と話してくれました。

サバ、アジ、カツオ、サンマなどの内臓に寄生する線虫の一種アニサキス。幼虫は、長さ2～3cm、幅は0.5～1mm程度



高精度で調整された塩水にアジフィーレを浸し、1億ワットの瞬間的大電力を350～500回かけることで殺虫率99.9%以上が確認された



産業ナノマテリアル研究所
浪平隆男 准教授
NAMIHIRA Takao

企業連携で 「新時代へ！」

熊本大学では、研究成果を活用して、現代的な社会課題に関わり、積極的に解決しようという取り組みが各学部で行われています。文化や健康、教育など、SDGsの考え方にも繋がる取り組みは、強力なパルスパワーや最新の発芽技術、ワクチン研究のほか、長年取り組んでいる木育や薬草に関する研究も活用されています。今回は、熊本大学と企業・団体連携の「今」を伝えます。

NAMIHIRA Takao

**連携1**

水産加工企業と「ともに」
パルスパワーで生食文化を守る

MISUMI Shogo

**連携2**

地場企業と「ともに」
薬草資源の生産技術をつくる

TAGUCHI Hirotsugu

**連携3**

木材関連企業と「ともに」
木育で木と生きる未来をつくる

MISUMI Shogo

**連携4**

ワクチン製造企業と「ともに」
ワクチン製造法の近代化を目指す

WATANABE Takashi

**連携5**

不動産企業と「ともに」
身近な防災や緑化に取り組む

くDAI-Z株式会社。特許を持つ独自の発芽促進技術「落合式ハイプレッシャー法」を使い、大豆を原料とした植物肉の開発や生産を行っている企業です。

落合式ハイプレッシャー法は、発芽直後の大豆に酸素や温度、水などの条件を変えてストレスを与えることで、通常の発芽であれば眠っているような代謝を活性化させ、それによって大豆の成分をコントロールするという方法です。「生薬の原料となる有用植物を効率よく発芽させるだけでなく、生薬の特定成分の含有量が多い苗を作れないかと考えています。さらに、これまで2、3年必要だった栽培期間を1年に短縮。生産者が安心して栽培に取り組みやすいシステムを構築することを目指しています」と三隅教授は話します。



大豆にストレスを与えることで成分や発芽をコントロールする「落合式ハイプレッシャー法」を活用

アカデミアの力で 本質的な品質管理を 可能に

薬用植物地域エコシステムの構築には、熊本の風土にあった栽培法の確立や遺伝子解析による成分評価も含まれます。「この遺伝子の発現があるからこんな成分が多い、といった科学的根拠もきちんと説明した上で、苗ごと生産者に提供したいと考えています」と三隅教授。「実は、医薬品の規格基準書である『日本薬局方』の基準を満たすとして市場に出ている生薬でも、私たちの評価系で調べると活性が全然違うこともある。私たちは、有用植物の成分を数値として見える化するとところまで踏み込むので、これまで以上に本質的な品質管理が可能になります」。

このプロジェクトでは、D

AI-Z株式会社に加え、同じく地場企業である株式会社再春館製薬所とも連携。生薬に手間を加えることで特定の効果を高める同社の修治技術も活用されています。「熊本の企業を巻き込んで、熊本発の生薬生産システムの基本的な手順をつくり、将来的には全

国版に格上げする。私たちは持っている技術をいかに社会に還元するか、そんな意識を持ちながら取り組んでいます」と三隅教授。「その次はグローバル展開するという段階も、もう見えています」と力強く話しました。



薬学部にある薬草ミュージアムには、世界から収集された様々な薬草が現物のまま保管、展示されている。まだその成分が明らかになっていないものも多く、感染症の防止や治療への活用を期待されているものも多い



大学院生命科学研究部附属
グローバル天然物科学研究センター
三隅将吾 センター長／教授
MISUMI Shogo

生薬供給の海外依存から脱却 「生薬生産なら熊本」を目指す

漢方薬などに使われる生薬の原料となる
有用植物の栽培や評価研究を、長年積み重ねてきた熊本大学。
世界的に天然物を活用した医療への関心が高まる今、
熊本の地場企業とタッグを組んだ、
「熊本発の生薬生産システム」の
確立を目指したプロジェクトが進んでいます。



薬学部の事業 「UpRod」が プロジェクトのベース

いくつかの生薬を組み合わせて作られる漢方薬は、どれか一つでも手に入らなくなれば製造できなくなってしまうですが、その原料植物は、供給のほとんどを中国に依存しているのが現状です。「日本国内で生薬原料の量と質を確保し、安定供給できるシステムが必要です」と話すのが、三隅将吾教授。そのシステムの確立を目的に始まったプロジェクト「薬用植物のオリジナル栽培技術および新たな品質評価技術の実用化に基づく『薬用植物地域エコシステム』の提案」の代表を務めています。

このプロジェクトは、平成29年度から行われていた熊本大学薬学部のUpRodという事業がベースとなっています。「UpRodは、熊本大学に蓄積された、薬に利用できる有用植物のライブラリーを基にした研究やビジネス展開で、創薬産業のイノベーションを起こすこと

を目的とした事業。世界の国々や企業と連携を図ってきました」と三隅教授。UpRodで培われた知見や技術、連携のノウハウを活かして始まった今回のプロジェクトは、国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）の

事業にも採択されています。

DAIZの特許技術を 有用植物栽培に活用

プロジェクトを強力に推し進めるために熊本大学が連携したのが、熊本市に本社を置



熊本市にある試験圃場（ほじょう）。実際に栽培した際にどのような手順を行うのがよいか、試験栽培を行うことで生産者に取り組みやすいシステムを構築しようとしている

連携4 熊本大学 × KMバイオロジクス株式会社

感染症から国民を守る 新しいワクチン製造法



大学院生命科学研究部附属
ワクチン開発研究センター
三隅将吾 教授
MISUMI Shogo



熊本はもとも感染症やワクチン研究に縁が深く、世界保健機関（WHO）で活躍した天然痘撲滅の立役者、蟻田功博士は熊本大学医学部出身です。ご存じのように、天然痘（痘そう）は、その高い致死率のために人類に甚大な被害を与えました。WHOの根絶計画により、地球上から天然痘の流行を根絶することはできませんでしたが、研究目的で保管されている痘そうウイルスの存在は、生物兵器としての使用の可能性が危惧

されてきました。

さらに昨年、サル痘が海外でアウトブレイク（集団発生）。新型コロナウイルスのパンデミック等の経験を踏まえ、もう一度、天然痘やサル痘のワクチン研究を進めようと医療薬品企業・KMバイ

オロジクス株式会社（KMB）とともに、国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）の先進的研究開発戦略センター（SCARDA）が公募した「ワクチン・新規モダリティ研究開発事業」に採択され、2023年3月に共同研究として「痘そうワクチンの製法近代化に関する研究」が始まりました。

「プロジェクトの目的は、痘そう及びサル痘の予防を効能・効果とするワクチンの製造を、より近代的で安定性の高いものにする」と話すのは、三隅将吾教授。具体的には、ウサギの腎臓細胞を用いて製造している現在の方法から、「株化細胞」による製法を確立することで、工程の簡素化を図るという研究です。事業には薬学部の腎臓の専門家も参画。KMBは、CMC開発、非臨床試験、臨床試験等の開発を進めていきます。動物愛護、そしてリスクに備えた新しいワクチンの製造法確立が期待されています。

※CMC開発
医薬品を製造する際の最適な生産工程、生産プロセスや品質評価のための試験法などを開発すること。

連携5 熊本大学 × 大東建託株式会社

災害時にも安心「食べられる花壇」

一見、華やかな花壇。実はすべて食べられる植物。それが、渡邊高志教授が監修した「食べられる花壇」です。大東建託株式会社の依頼を受けて造られたもので、2022年3月から5月まで熊本市で開催された「第38回全国都市緑化くまもとフェア」で一般公開されました。

「食べられる花壇に植えられたのは、『救荒植物』と呼ばれる植物。災害などで食料が不足した時に、食用として利用できる植物のことです」と渡邊教授。今回は、「ヨメナ」という、かわいらしい花を咲かせるキク科の植物などが植えられました。「花が終わった後に加工して保存すれば、

お茶として飲むなど、皆さんの健康に資する利用ができます」。

救荒植物は強く、野菜のような栽培の手間がかかりません。「例えば街中の花壇も救荒植物にしておけば、万が一の時に困らないので、そういった施策も必要だと思います。熊本県内の保育園や小中学校とも協力しながら、熊本県の緑化推進、地域の防災活動として促進していく予定です。熊本はもとも自然の宝庫で、食べられる植物も豊富。未利用の植物もあるので、それを活用できるように社会に還元できたら、熊本はおもしろい土地だね、となると思います」と話しました。



大東建託株式会社熊本北支店の入口に設置された「食べられる花壇」。地域の人たちが「防災」や「緑化」について考えるきっかけにもなっている



大学院生命科学研究部附属グローバル天然物科学研究センター
渡邊高志 教授

WATANABE Takashi

木の良さを伝える「木育」から活動の輪が広がる

地球温暖化や災害の防止、生物多様性の維持など様々な役割をもつ森林。田口浩継教授は、木の良さを知り、森林の大切さを知る「木育」を広げ、様々な企業や団体と連携して、この問題の解決につながるいろいろな取り組みを行っています。

「木育」の大切さを伝える 木育推進員養成講座も 実施

水源の涵養や二酸化炭素吸収による地球温暖化防止、生物多様性の維持や災害を軽減させるなど、様々な役割を持つ森林。森林の役割や木の良さを知る「木育」に取り組んでいるのが、田口浩継教授です。「ものづくりフェア」では、木を素材にした円形木琴や木製スマホスピーカーなどのものづくりを、子どもたちや高齢者向けに実施しています。

木育活動をもっと広げるために始めたのが「木育推進員養成講座」です。現在14年目。これまで99回開催し、述べ3320人が参加しています。受講生は幼稚園や学校の

先生、行政、民間企業、NPO、高齢者施設のスタッフなど。「最初は初級編だけでしたが、もっとやってほしいと頼まれて中級編、上級編も始めました」と田口教授。現在熊本県内では、熊本県主催と熊本大学主催の両方が行われており、県外でも熊本大学主催で講座を開催。修了者は熊本大学より「木育推進員」の認定を受けることができます。

大学だからこそ専門的な知識や技術を伝えられる

木育推進員養成講座では木造家屋の環境保護効果なども学べます。木育推進員の認定を受けた人たちの中には住宅メーカーの社員もいます。

そのうち熊本県の住宅メーカー、新産住拓株式会社で

は、熊本大学と連携し、「木のモノづくり教室」を開催。福岡県の木工工房田川工房は、ものづくりフェアで使用する工作キットの制作・提供に協力しています。今後は全国で「おもちゃ美術館」を展開している東京おもちゃ美術館や、九州でTSUTAYAを運営するニユーコ・ワン株式会社などとも連携し、木育に関するイベント等を実施していく構想も出ています。

現在、木育推進員の認定を受けた人は熊本県で約1200人。「これが2000人になったら、何か変革が起きる」と期待しています。講座や連携の取り組みは社会運動。受講生にはそれぞれが木育を伝えていけるようになってほしいです。



写真上：木材の切れ端を使ったアート作品を作る教室も開催
写真下：小中学生を対象に開催されている「木工教室」。教育学部の学生が子どもたちに円形木琴の作り方を教えるなど、学生の教育の場にもなっている



円形木琴やスマートフォンスタンドを兼ねたスピーカーなどは、オリジナルでキット化。小中学校で技術の教材としても活用されている



大学院教育学研究科
田口浩継 教授
TAGUCHI Hirotsugu

うちの研究室自慢

■ 研究室の特徴

① 調査実習で地域を調べる力が身につく!

3年次に、日本史調査実習のリーダーとして地域でのフィールドワークに行きます。実習が初めての後輩と地域の人の話を聞いたり、スケッチしたりして地域の歴史を学ぶ力を身につけます。

② 卒論研究は先生が1対1で相談に乗ってくれる!

4年次のゼミは卒論研究。自分に取り組むテーマについて先生に相談しますが、親身になって優しくアドバイスしてくれます。

③ 切磋琢磨してがんばろう!という雰囲気です

春田先生はとてもフレンドリー。研究の話になると厳しい指摘もありますが、それもそれぞれの研究を大切に考えてくださっているから。そのため、メンバー全員がみんなで切磋琢磨しています。

■ 主な就職先

小学校教諭、中学校社会科教諭、高等学校地歴科教諭、学校事務職員、熊本市役所、株式会社肥後銀行、九州産交リテール株式会社 など



高森町で行っている
フィールドワークの様子



地名のいわれや伝承などを地域の人に聞き取り調査します



学生から一言!

研究室に所属している学生に研究の魅力を聴きました!

地元沖縄に戻っても 琉球の歴史を学び、伝えたい



教育学部
小学校教員養成課程4年

なかぞね はなえ
仲宗根 花恵さん

卒業論文では「琉球八社の信仰と首里王府」を取り上げました。地元沖縄で琉球官社と呼ばれる8つの神社と首里王府との関わりを調べたものです。最初は琉球八社について調べていたのですが、次第に首里王府との関わりが気になり、それぞれが首里王府とどのような関わりがあったか、政治的にどのように使われたかを調べました。史料に書かれたことから分析できないので、漢文の史料を読解するのが難しかったですね。でも読むたびに新しいことに気づけて面白かったです。

どんな研究を?

私は沖縄出身で、4月から沖縄で小学校の教員になることが決まりました! 地元に戻っても、論文を書く際に読んだり調べたりした地元のことについて、神社の神主さんをはじめとした方々に話を聞くなど、知識を深めていきたいと思っています。論文の内容や地元で調べたことは、子どもたちに授業の中で紹介していきたいです。地元の歴史に興味をもってくれるような授業ができればいいなと思います。

卒業後は?

教える技術だけでなく、 日本史の専門も深められる



教育学部
中学校教員養成課程(社会)4年

どい じゅんいちろう
土井 淳一朗さん

両親が教師だったためか、小さいころから教師になりたいと思っていて、教育学部を選びました。高校で自分が好きな日本史を教えたいと思っていました。教育学部では2年次までに世界史や経済学などほかの社会科学の授業も受けるのですが、春田先生の日本史の授業が一番興味を持てる内容でした。教えるスキルだけではなく、日本史の専門も深められるのではないかとこころを選びました。4月からは熊本市の私立高校で教える予定です。これまで調べたことを学校の授業でも活かしたいと思っています。

なぜこの研究室に?

戦国大名の分国法の1つである『塵芥集』の刑事法規の条文を取り上げ、定めた人物の姿勢を探るという研究でした。戦国時代の法意識や道徳心は今と違うというのは想像できていたのですが、現代とどのように違うのかがとても気になって、それを探るために分国法から探ってみました。『塵芥集』は非常に条文が多いため刑事法だけに絞りましたが、それでも70くらいあって、内容を現代語に訳しながら定めた人の姿勢が分かるものを分析しました。

卒業論文の内容は?

史料を集め、読み解く力を身につけて 歴史の楽しさを子どもたちに伝える人材に



先生から一言！

教員はいろいろな地域に赴任しますが、その地域には必ず歴史があります。それまでの先入観を打ち破り、地域の歴史に向き合う歴史的思考力をもった教員なら「こんなスゴイ歴史がある」と子どもたちに伝えられるはず。今後その地域の主役となる子どもたちに、誇りをもってもらえる教員を育成したいですね。

この研究室では歴史資料を集め、読み解く方法を身につけることで、教材のための研究ができる人を育成しています。その一つが古文書の読解。昔の文字で書かれた古文書を読み解く力があれば、新たな事実を自分で見つけることができます。さらにフィールドワークで、文字以外の歴史情報も活用できればより深く地域の歴史がわかります。

**先入観を打ち破り、
歴史的思考力をもつ人に**



はるた なおき
春田 直紀
教授

大学院人文社会科学部 研究部

共に向き合い、支える支援プログラムで 納得感のある就活にしていきたいと思います！

熊本大学のキャリア支援は、就職支援課が主に担当しています。全国的にも注目されている独自のキャリア支援サイトの運営や、これまでのネットワークを活かしたイベントの開催などについて、就職支援課の日和田伸一専門職員にお話を伺いました。

私たち就職支援課が重視しているのは「納得感」のある就活です。将来どんな仕事に就くにせよ、「なぜ働くのか」「なぜその仕事をするのか」を深く考え、自分の中で決めることが重要になります。就職した後、仕事や職場のイメージと実際が異なるのはよくあること。でも、納得して決めていけば、自分でそのギャップを埋められます。

そのために私たちが重視しているのは将来と就職活動のリアルを知ってもらうことです。そこで「卒業生」「人事担当者」「就活生」の3つのリアルを実践的に伝えるプログラムを準備し、適切な時期に提供できるようにしています。

特に力を入れているのは卒業生のリアルを伝える「キャリア支援サイト」。約1000名のOB・OGが自分の仕事について投稿している「キャリア

メッセージ」は必見です。自分の学部の先輩がどんな仕事に就いているかという事実を知れば、選ぶ業界の幅も大きく広がります。また、各企業の人事担当者や就活を終えた4年生が本音で語る交流会やセミナーも開催しています。どのセミナー、イベントもオンラインで参加可能です。

納得感のある就活のためには、学生生活で多様な経験をすることも重要です。これは主体的に動くことでしか得られません。いろいろな体験をして多様性を磨けば、就職後に重視される変化対応力も身につきます。

不安なときや悩んだときは私たちが全力で支援します。ぜひ相談に来てください！

就職支援課で皆さんをお待ちしています！
(前列左が日和田さん)



具体的にどんなプログラムがあるかは、次のページで！

1年次から
使ってみよう！

“キャリア支援サイト”を活用しよう！

熊本大学オリジナルの「キャリア支援サイト」には各業界に就職した先輩方からのメッセージやインターンシップ・就職活動の体験記など、生の声が掲載されています。興味を持った業界のリアルや就活の進め方など、「知りたい」ときも「迷った」ときも役立つ情報が満載です！

先輩方が様々な困難を乗り越えて内定に至ったことが分かりました。やりがいを持って働いている姿も見え、職業選択の参考になりました。



OB・OG キャリアメッセージ

全国のさまざまな企業、団体で活躍している約1000名の卒業生から寄せられたメッセージです。仕事や進路先についてのリアルなイメージを見れば、自分の可能性も広がりますよ！

就職活動体験記

就職活動を終えた先輩たちがどのように就活を進めたのか、実際のスケジュールや役立つアドバイスも記載されています。

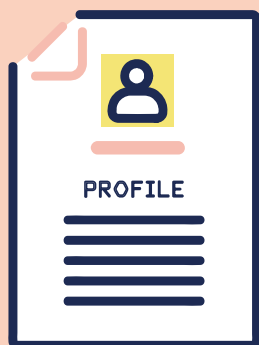
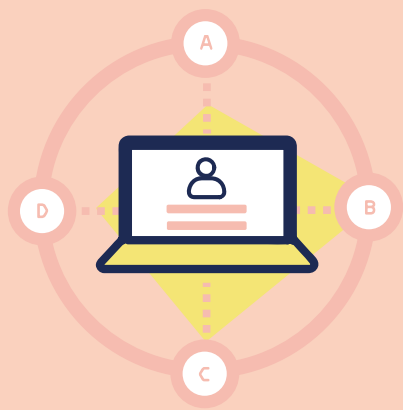


就活サポートブック

自己分析のやり方、内定辞退のやり方など迷ったときの対応方法をまとめたマニュアルです。電子版なのでいつでも確認できます。



※「キャリア支援サイト」は熊本大学ポータルにログイン後、アクセスしてください。



大学卒業後にどんな仕事をしたいか。
入学時にはイメージがつかなくても、
卒業後のキャリア（人生）は
大学時代にどんな学生生活を
過ごしたかで決まります。

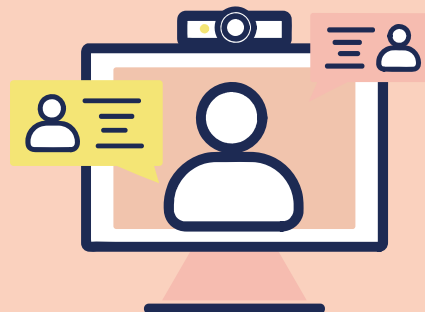
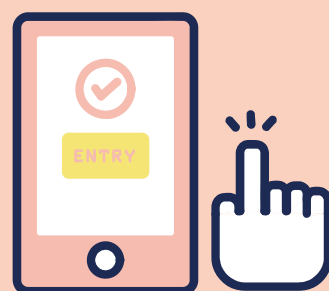
その集大成でもある就職活動（就活）は
内定を取るためだけの活動ではありません。
「納得感」がある就活をし、
「充実感」がある仕事をするためには、
変化に対応できる多様性や主体性を
身につけ、なぜその仕事を選ぶのかを
深く考えることが重要です。

就職支援課ではそんなプロセスづくりを
適切な時期に適切にサポートする
多彩なプログラムで、
皆さんのキャリアを応援しています。

熊本の
大学の

キャリア支援

特集Ⅱ
未来と一緒に
考えよう！



“キャリア”ってなに？

キャリアとは、就職や仕事ではなく、働くことに関わる「継続的なプロセス（過程）」や、働くことにまつわる「生き方」を指します。情報化、グローバル化がすすむ社会で、働き方や価値観が変わる中、どのように生き、働くかを考えるのが熊本大学の「キャリア教育」であり、適切な支援をしていくことを「キャリア支援」と呼んでいます。

納得感のある就活のために 1年次からサポートします！

就活は3年次から、ではありません。自分が納得できる
就活のための学びは1年次から始まっています。その時期に
あった科目やプログラムで自分と仕事について深く考えていきましょう！

1年

教養科目「キャリア入門」等で自分の将来を考えてみよう！

社会や就職状況の変化を知った上で、大学での学び、生活と仕事・就職の関係について理解する科目です。「自分らしく生きる」ためのヒントを学ぶことは、将来について考えるきっかけになります。4年間の大学生活をどう過ごせば良いか、主体的に考えていきましょう。
(就職支援課で一部の授業をお手伝いしています)

「キャリア支援サイト」
「KUMA★NAVI」も
活用してみよう！

2年

講義やサークル活動で学生生活を充実！ 自分のキャリアについても考えていこう！

就職支援課の各種セミナーに参加して、将来のイメージを具体的にしていけるのもおすすめです。

3年

(修士1年)

いよいよ就活スタート！セミナーで「リアル」を知ろう！

イベントやセミナーのお知らせを随時チェックして積極的に参加しよう！

✓ 就職ガイダンス

✓ インターンシップ

✓ 就職準備講座 02

✓ 学内公務員試験対策講座

✓ 学内教員試験対策講座

✓ 先輩キャリア交流会 03

✓ 業界研究講座 04

✓ 自己分析特別講座 05

✓ Own Work Note プロジェクト 06

✓ 模擬WEB面接講座

✓ 熊本県・福岡県就職希望者向けガイダンス

✓ JOB STUDY 07

✓ 学内企業・公務員説明会 08

✓ 就活カフェ・未内定者メルマガ

✓ 進路・就職相談

4年

(修士2年)

[お問い合わせ]

就職支援課 (黒髪北キャンパス 全学教育棟C棟1階)

TEL : 096-342-2119 / 2120

E-mail : gas-syuki@jimu.kumamoto-u.ac.jp

いつ頃、どんなセミナーやイベントを
利用するのがいいかなどは、
「就活サポートガイド」をチェック！



就活サポートガイド



KUMA★NAVI

仕事分かる！キャリアが見える！ オススメ支援プログラム

先輩たちも活用した支援プログラム。1年次から参加できるもの、オンラインで参加できるものもあります！
まずは「KUMA★NAVI」にアクセス！

オンライン可能 

01

就活準備はココから！ KUMA★NAVI

熊本大学の学生専用の就活ナビサイト。ガイダンスやセミナー、企業説明会のほか、キャリア相談の予約（1年次から利用可）もを行います。



02

就活の基礎を学べる！ 就職準備講座



就職活動準備のための基礎講座。自己分析やエントリーシート対策のほか卒業生人事担当者による面接対策も。

就職活動に対する不安があった初期に利用！これからやるべきことを知ることができて良かったです。



03

仕事に対する考えが変わるかも 先輩キャリア交流会



キャリア支援サイトにメッセージを掲載している社会人の先輩から仕事への思いを聞く交流会。1年次から参加OK。

先輩方のやってよかったことや失敗したこと、心構えなどが参考になりました！



04

あの業界の今とこれからが分かる！ 業界研究講座



日本の産業界を支えるリーディング企業を招きビジネスの最新トレンドを共有する講座。世界観が広がります。1年次から参加OK。

業界を代表する企業が様々な専攻の人を求めていることが分かりました。視野を広げるためにもオススメです。



05

知らなかった自分が見える！ 自己分析特別講座



職業適性診断テストで自己分析を深める講座です。自分に向いている仕事や興味、価値観を客観的に分析できます。学部3年生、修士1年生が対象です。

自分の知らない一面が見え、自己分析やエントリーシート作成に役立てました！



06

先輩の失敗から就活のリアルを学ぶ Own Work Note プロジェクト



20年以上続く、就活を終えた先輩が自分の知識やノウハウを伝授するセミナーです。失敗談から多くのことが学べます。



07

人事担当者のリアルが分かる JOB STUDY



企業人事担当者と語るキャリア啓発セミナーです。座談会形式で働くことへの疑問や不安などについて助言が得られます。1年次から参加OK。

08

優良企業や官公庁の効率的な研究ができる！ 学内企業・公務員説明会



就活解禁日に合わせ、熊大生の採用を積極的に考える企業約200社（官公庁含む）の説明会を実施しています。1年次から参加OK。



各プログラムに参加したい方は「KUMA★NAVI」から

文

大学時代に積んだ貴重な経験を活かし文化財関連の業務に従事



小西 海央

KONISHI Mio

大分県教育庁文化課

文学部総合人間学科 令和2年3月卒

平成9年生まれ。大分県玖珠郡玖珠町出身。大分県立玖珠美山高校卒業。趣味は音楽鑑賞で、卒業後離れていた楽器に最近になってまた挑戦したいと考えている。学生時代の友人と他愛もないおしゃべりをするのが日々の楽しみ。

熊大のココがイイ！

黒髪北キャンパスに桜の木がたくさんあること！卒業～入学シーズンは桜吹雪が本当にきれいでした。

文化や歴史に興味があり総合人間学科へ

高校生の頃は部活三昧で将来やりたいことも決まっていなかったのですが、両親が大学に行ったらきっと楽しいと勧めてくれたので進学を決意。もともと文化や生活、歴史など人文系に興味があったので、分野の幅が広く入学後にやりたいことを見つけられそうな総合人間学科を選びました。

学科とサークルで多くの出会いがあり、世界が広がった

学科とサークルの両方ですてきな友人たちに出会え、充実した時間を過ごしました。授業では民俗誌を作ったり博物館巡りをしたり。ゼミでは人前で話し、受け答えする力も鍛えられました。所属していたオーケストラサークルでは、演奏会などを通じて貴重な経験ができました。いろいろな価値観の人やものに出会い、自分の世界がぐっと広がったと感じています。

大学で勉強したことを思い出しながら文化課に勤務

卒業後は大分県庁に就職。令和4年度から教育委員会に出向になり、文化課で働いています。文化部活動や文化財保護など、大学でたくさん触れてきたものに囲まれた業務内容です。文化財関係は専門的な話題も多く大変ですが、大学で勉強したことを思い出しながら取り組んでいます。

医

研究のお手伝いから整形外科医に。支えてくれた人への恩返しをしたい



山口 裕介

YAMAGUCHI Yusuke

独立行政法人地域医療機能推進機構人吉医療センター（熊本県）

医学部医学科 平成31年3月卒

昭和61年生まれ。佐賀県佐賀市出身。佐賀県立佐賀西高校卒業。東京大学理科一類を中退し、熊本大学へ。ネトゲ廃人（ネットゲーム中毒者のこと）が社会復帰して子どもも生まれました。次は家庭菜園のできる庭がほしいです。

熊大のココがイイ！

やる気があれば高校生でも研究室に入れる（柴三郎プログラム）。再受験生もいて年齢層が幅広い。

工学系学部に進むも中退し、医学部へ

将来の夢や目標は特になかったです。そのうち見つかるかと思い、何となく興味がある工学部系に進学しましたが、見つかりませんでした。高校時代には医学部にはまったく興味がありませんでしたが、縁あって熊本大学医学部へ進みました。

研究の手伝いや体育大会の運営に頑張った大学時代

当初の目標はひきこもりに戻らないことでしたが、分子遺伝学教室で研究の手伝いをさせていただいたり、九州・山口医科学生体育大会の運営をしたり、園芸部の部長をしたりと、振り返ってみると意外と頑張ったのかもしれない。

整形外科の研究の手伝いが整形外科医を目指すきっかけに

分子遺伝学教室で整形外科の先生の研究を手伝わせてもらったことが、整形外科医になることを考えるきっかけになりました。初期研修でお世話になった先生の教えが今の自分を支えていると思います。その他にも多くの人たちの助けがなければ今の自分はありません。少しでも恩返しできればと日々あがいています。

理

技術者の立場で世界のカーボンニュートラルに取り組む



権藤 貴明

GONDO Takaaki

住友大阪セメント株式会社国際部技術グループ（東京都）

理学部理学科 平成24年3月卒

大学院自然科学研究科博士前期課程理学専攻 平成26年3月修了

平成2年生まれ。福岡県久留米市出身。福岡県立明善高校を卒業し、熊本大学・大学院を経て住友大阪セメントへ。入社後、最初の勤務地の高知工場で上司・同僚に誘われゴルフを始め、定期的に仲間と楽しんでいます。

熊大のココがイイ！

学会等のいろいろな経験を積める教育環境と街に近いロケーション。

理系科目が好きで、理系の職種を目指し理学部へ

高校時代は理系科目が比較的好きだったので、漠然と将来は理系の職種に就きたいと思っていました。熊本大学の理学部は一学科制のため入学後、全ての理系科目の基礎を学ぶことができ、その中から自身の興味や将来を考えながら進路を決めることができました。

研究も楽しみ海外へも。たくさんの貴重な経験ができた大学生活

素晴らしい友人・先生に恵まれ、球技大会や飲み会など楽しい思い出ばかりです。研究室に入ってから国内の学会や海外の学会にも参加する機会をいただき、研究に打ち込む一方で、人生初の海外経験を積めたことなど非常に有意義な経験ができました。

世界のカーボンニュートラル推進を支える事業に従事

現在はセメントメーカーである住友大阪セメントの国際部にいます。技術者の立場で海外の技術支援や海外プラントメーカーの新規技術の導入等、海外事業に携わっています。世界的なカーボンニュートラルの取組みの中で、技術者の一人として当社グループのカーボンニュートラルの推進を支えるべく日々取り組んでいます。

法

大切な法律の話を若い世代に伝えたいと法教育授業の活動にも取り組む



大津 秀英

OTSU Hidetoshi

宮田総合法律事務所（熊本県）

法学部法学科 平成24年3月卒業

平成元年生まれ。熊本県熊本市出身。熊本県立熊本高校卒業。九州弁護士会及び熊本県弁護士会の法教育委員会、法曹養成に関する委員会、子どもの権利委員会にそれぞれ所属しています。趣味は麻雀。

熊大のココがイイ！

図書館が充実。熊本にあるどの図書館よりも本、雑誌が置いてあります。たくさん利用してください。

政治、経済など幅広い教養を持った人間になりたいかった

特定の仕事や職業に就きたいという希望はありませんでした。平穩無事に、楽しく生きていければそれで良いと思っていました。強いて言えば、好きな教科が現代社会だったので、政治、経済など幅広い教養を持った人間になりたいと考えていました。

労働法や税法を学び、弁護士を目指す

サークルの部室でゲームしたり、飲みに行ったり、キャンパス近くの雀荘で麻雀したりしていました。労働法や税法を習うようになり、「こんな大切な話は中学校、高校の時から教えるべきだ」と思うようになり、弁護士になろうと思い始めました。

弁護士の傍ら、中高生に法教育授業を実施

熊本市内で弁護士をしています（ネットで是非検索してください）。会社顧問、遺言相続、離婚問題、刑事事件など多くの分野をやっています。他に、中学生、高校生を対象に法教育授業を行っています。生きていく上で大切な話を若い世代に周知すべく、法教育を義務教育に取り入れるための活動を模索しています。

薬

大学時代に学んだサイエンス思考で「より安全で安心」なワクチンを届けたい



熊大のココがイイ！

様々な分野でリーダーとなり活躍されているEQ(心の知能指数)の高い人が多い。

水之江 翔太

MIZUNOE Shota

K Mバイオロジクス株式会社(熊本県)

薬学部薬科学科 平成19年3月卒
大学院薬学部博士前期課程 平成21年3月修了
大学院薬学部博士後期課程 平成24年3月修了

昭和58年生まれ。大分県大分市出身。大分県立大分上野丘高校から熊本大学薬学部を経て大学院へ。博士取得後、北里第一三共ワクチン株式会社(埼玉県)に勤務ののち、KMバイオロジクス株式会社に転職。子どもに「あのワクチンはパパが作ってるんだよ」と誇れる仕事をしたいと常々思っています。

実家の薬局を継ぐため「なんとかなる」と薬学部を受験

「リーダーという夢を中学校に置いてきたので、実家の薬局を継ぐため薬学部への進学を決心。いざ本腰をいれようと学力があまりに足りていなくて愕然としました(判定E)。しかし、「なんとかなる」と前向きに考え、浪人を経て無事に合格。「ポジティブだね」とよく言われますが、この経験によるものだと思っています。

サイエンス思考を叩き込まれた大学時代

1年次は赤点の連続。深夜に口頭試問を受けるという「特別待遇」も経験しました(笑)。研究室での6年間は苦労もありましたが、甲斐教授(現:副学長)には「なぜ」「どうして」と常にサイエンス思考で考えるクセを叩き込んでもらいました。メーカー勤務になった今でも大変役に立っています。

転職で九州へ。ワクチンのCMCに就事

関東の製薬会社で7年働き、転職により九州に戻ってきました。就職後はずっとワクチンのCMC(製造プロセスの開発)に携わっています。現在は、インフルエンザワクチンの製法改良に従事。多くの方に、「より安全で安心」なワクチンを届けるという目標のため、「なぜ」「どうして」と考えながら日々の仕事に向き合っています。

工

河川研究の知識を活かして
全国の河川行政に携わる



熊大のココがイイ！

九州各県から優秀で愉快な学生が集まる。阿蘇、天草など自然が豊か。

井上 剛介

INOUE Kosuke

国土交通省中国地方整備局企画部企画課(広島県)

工学部社会環境工学科 平成26年3月卒

平成4年1月17日生まれ(3歳の誕生日に阪神淡路大震災発生)。福岡県那珂川(現那珂川市)出身。福岡県立春日高校卒業。小学校3年生から野球を始め、高校まで野球漬けの日々。趣味は旅行とダムカード集め。全国転勤を生かして日本中を満喫中。

誰かの役に立ちたいと、野球少年から公務員志望へ

小さい頃の夢はプロ野球選手。高校は文武両道で野球に力を入れている福岡県立春日高校に進学し、仲間と甲子園を目指していました。いつからか、誰かの役に立ちたい、世の中をより良くしたいという思いが強くなり、公務員を志しました。国土と、一人一人の暮らしを守る国土交通省(国交省)の仕事に誇りを感じます。

3年次に熊本—東京間をヒッチハイク!人生で一番のイベントに

3年次の春、学科の友人の誘いで熊本—東京間の往復をヒッチハイクしました。私にはそういった発想がありませんでしたが、今しかできないと思ってチャレンジしました。15台の方に乗せていただき、様々な背景をもつ方々との出会いや、道中でのトラブルなど、人生で一番印象に残るイベントの一つとなりました。

河川研究に携わったことから国交省へ

大学のゼミで河川の研究に携わり、その縁もあり就職先は国交省に決めました。入省後は主に河川行政を担当し、本省(東京)勤務時代には、激甚化する気候変動の影響評価とそれを踏まえた流域治水という対策への転換など、全国の河川行政の方向性を決める経験を得ました。現在は、中国地方の採用担当として、管内の大学等をまわり、学生との交流を楽しんでいます。

※写真撮影:大石恭正



本学の卒業生たちの今に迫る「卒業生ジャーナル」。

熊本県内はもとより、国内外で活躍している

先輩たちの様子を、これまでの歩みや苦勞、

そして喜び、楽しみなどを通じてご紹介します。

教

子どもと関わる教職員として3年、
ICTを授業や係活動にも活かしています!



熊大のココがイイ！

先生方が親身。のこぎりの使い方が下手な私に最後まで丁寧に教えてくれました。

島村 健佑

SHIMAMURA Kensuke

熊本市立健軍小学校 教諭

教育学部中学校教員養成課程技術専攻 令和2年3月卒

平成9年生まれ。熊本県熊本市出身。熊本県立済々黉高校から熊本大学へ。ソフトテニスに興味で、今も週末や長期休みに北区の中学校に部活のお手伝いで行き、汗を流しています。学生時代、キャンピングインストラクターや木育インストラクター、プレイリーダーの資格を取得しました。

公務員を目指す中で子どもと関わる教師を目指し教育学部へ

親からの勧めもあり地元熊本での就職、かつ公務員を目指していました。公務員といっても県庁、市役所、教職員と様々。最終的に「子どもと関わるのが好きだった・楽しかった」ということが、教育学部を受験する決め手となりました。今は、この選択をしてよかったと思っています。

「メイクフレンズ」で楽しく経験を積む

大学では、フレンドシップ事業を行う「メイクフレンズ」というサークルに所属していました。活動の一環で、土日は熊本市内の各公民館でパン作りなどの講座や、子ども会のレクレーション、キャンプなどを楽しみながら様々な経験をしました。サークルの代表として、各公民館の社会教育主事の先生方や熊本市役所の生涯学習課の方と関わり、社会経験も積みめました。

体を動かすことの楽しさや喜びを伝えたい

教職に就き、3年が経とうとしています。同働している先生方のアドバイスや授業の実践集を読む中、まずは人の真似をすることの大切さを感じています。また、個人的に様々な場面でICTを活用することを考えています。授業以外でも係活動などで活用し、今では、朝の時点で充電100%でない機器の充電が切れてしまうようになりました(笑)。

REPORT

タイ王国チュラポーン王女殿下が熊本大学を訪問されました

令和4年12月23日、熊本大学はタイ王国のチュラポーン・マヒドン王女殿下とタイの代表団をお迎えし、チュラポーン研究所(CRI)、チュラポーン大学院大学(CGI)と大学間交流協定調印式を実施しました。調印式にはチュラポーン王女殿下をはじめ、CRI、CGI及び在日タイ王国大使館・総領事館等の関係者、本学から小川学長及び役員等が出席しました。

また、調印式の後は、特別講義として王女殿下に胆管がんに関する研究についてお話しいたき、タイからの留学生をはじめ、多くの学生や教職員が聴講しました。

今回の協定締結により、両機関は今後、抗がん剤・抗ウイルス剤の解析や臨床試験を共同で推進するほか、大学院教育におけるダブル・ディグリー・プログラムの設置も検討していく予定です。



交流協定調印式
(前列左:チュラポーン・マヒドン王女殿下 右:小川久雄学長)

REPORT

文学部附属国際マンガ学教育研究センター開設記念シンポジウムを開催しました

令和4年12月10日に文学部附属国際マンガ学教育研究センター開設記念シンポジウム「マンガ刊本アーカイブのめざすもの」を開催しました。同センターは、人文社会科学分野での国際的研究と地域貢献を前進させるため、令和4年10月1日付けで設置されました。

シンポジウムでは、本学教職員のほか、吉村和真氏(京都精華大学専務理事)及び大石卓氏(横手市増田まんが美術館館長)らによるマンガ刊本と原画が持つ魅力や価値、アーカイブの意義、連携の在り方等についてパネルディスカッションが行われました。

当日は約120人が参加し、パネルディスカッション後も参加者から多くの質問が寄せられ、活発なシンポジウムとなりました。同センターは、今後も継続して刊本(単行本や雑誌など)の収集、アーカイブを進めるとともに、留学生の受け入れや産学官連携による「マンガ県くまもと」構想を推進し、日本のマンガ・アニメ等の現代文化資源の分野における国際的研究拠点となることを目指します。



REPORT

熊本大学キャンパスミュージアム企画展「見よ、クマダイ研究力！一ケンキュウって面白いー」及び「五高記念館竣工記念写真展」を開催しました

令和4年11月3日～12月19日に、五高記念館において、企画展「見よ、クマダイ研究力！一ケンキュウって面白いー」及び「五高記念館竣工記念写真展」を開催しました。

「見よ、クマダイ研究力！一ケンキュウって面白いー」では、本学教員6名と埋蔵文化財調査センターの研究内容を18点のパネルにて展示。また、11月17日と12月1日には、出展した教員が研究の様々な側面について語るギャラリートークを開催しました。

「五高記念館竣工記念写真展」では、五高記念館や化学実験場などの趣を感じられる写真21点(撮影:星野雅俊氏)を展示。さらに特別展示として、本学名誉教授の三井宜之(よしゆき)氏より寄贈いただいた夏目漱石の自筆書簡1通を展示しました。

平成28年熊本地震からの復旧工事を終え、令和4年4月から一般公開を再開した五高記念館では6年ぶりの企画展開催となりましたが、期間中には1,776名の入館者があり、いずれの企画展も盛況のうちに終了しました。



ギャラリートークの様子



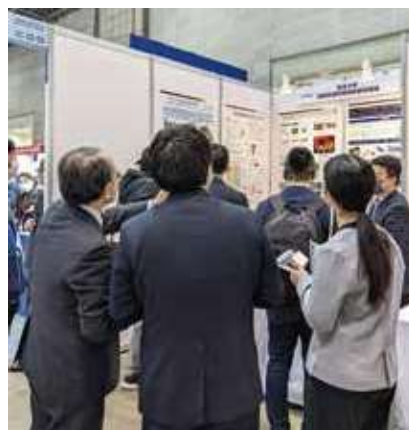
五高記念館竣工記念写真展

REPORT

「MEMS センシング&ネットワークシステム展 2023」に出展しました

令和5年2月1日から3日の3日間にわたって、東京ビッグサイトで開催された「MEMS センシング&ネットワークシステム展 2023」に国際先端科学技術研究機構(IROAST)から出展しました。IROAST展示ブースでは、IROASTが推進する国際共同研究や医理工連携研究の中から、4研究グループの研究紹介ポスターを展示しました。当日のブースには企業や大学関係者等が絶え間なく訪れ、各研究グループの担当者が来訪者に説明を行うとともに、活発な意見交換が行われました。なお同時開催のオンライン展示(令和4年12月1日～令和5年2月28日)にも多くの来訪者があり、IROASTが行っているバイオセンサーやMEMS材料に関する研究を広くアピールすることができました。

IROASTでは今後も国内外の企業との共同研究の発展に繋がる取組みを行っていきます。



REPORT

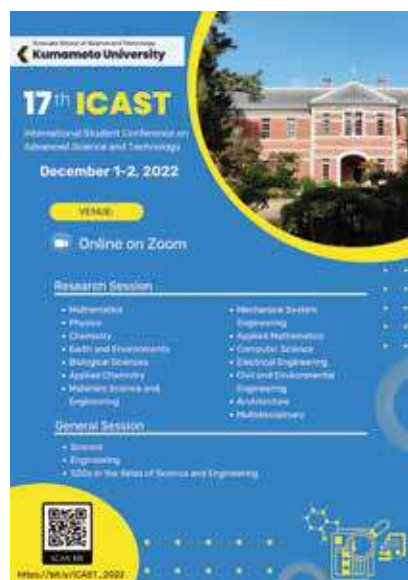
第17回先端科学技術分野学生国際会議(The 17th ICAST 2022)を開催しました

大学院自然科学教育部は、令和4年12月1日、2日の2日間の日程で「第17回先端科学技術分野学生国際会議」(ICAST: International Student Conference on Advanced Science and Technology)を開催しました。

ICASTは学生により運営される国際会議で、英語による研究発表や討論により学生の実践力及び英語運用能力を強化し、海外からの学生との交流により国際感覚を養うことを目的としています。平成20年より海外交流協定校での開催も含め毎年開催され、17回目の今回は新型コロナウイルス感染症への対策として、昨年に引き続き3回目のオンライン開催となりました。

今回は、熊本大学からの参加登録者96名に加え、熊本県内の高校から40名、愛媛県の高等専門学校から3名、海外大学(韓国、台湾、中国、インドネシア、フィリピン、トルコ、インド、ポーランド、ガーナ)から96名が参加登録し、口頭発表172件を英語で行い、のべ546人の参加がありました。

また、ICAST学生運営委員会により会議の準備運営が行われ、オープニングセッションを含む各セッションの司会進行等も学生により執り行われるなど、有意義な国際会議となりました。



REPORT

「第3回くまもとの健康と地域づくりを考える会シンポジウム」を開催しました

医学部保健学科公衆衛生看護学教室では、令和4年11月26日に「第3回くまもとの健康と地域づくりを考える会シンポジウム」を開催しました。開催目的は、熊本県内の地域母子支援に関わる保健医療福祉職が一室に会し、顔の見える多職種連携と地域包括ケアシステムづくりについて考えることです。当日は、県内の自治体や医療福祉施設から保健師や助産師、社会福祉士が参加し、本学の学生も加えて総勢79名が集まりました。シンポジスト3名からの事例提供と認定NPO法人ポピンズくまもと-only connect- 内田良介理事長からの教育講演の後、会場全体で、母子支援における重層的支援の重要性等について討論がありました。参加者からは、本シンポジウムへの満足度が高かった旨の声が聞かれました。今後も本教室では、現場と協働し、産官学連携の推進と地域保健活動の発展に尽力していきます。



熊本大学基金へのご協力に感謝し、心より御礼申し上げます。

No61（令和4年11月1日～令和5年1月31日）

皆様から、これまでに約17億8067万円(令和5年1月31日現在)のご寄附をいただき、研究・教育に資する事業に取り組ませていただきました。熊本大学基金に対して深いご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

今号では、令和4年11月1日から令和5年1月31日までの間に入金を確認させていただきました個人74名、13法人・団体のすべての寄附者の皆様へ感謝の意を込め、ご芳名を掲載させていただきます。公開を希望されない方につきましては、掲載しておりません。

また、万一お名前前に記載漏れがある場合は、誠に恐縮ではございますが、基金事務局(電話:096-342-2029)までご連絡ください。

皆様の更なるご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

基金の取組事項については、基金ウェブサイトに掲載しております。
熊本大学基金ウェブサイト <https://kikin.jimu.kumamoto-u.ac.jp/>



熊本大学基金 検索

1. お名前・寄附金額の掲載

(寄附金額別・五十音順・敬称略にて掲載させていただきます。) ※()内の数字は、累計寄附金額(万円)です。

<熊本大学基金>

【378万円】	熊本大学医学部医学科後援会(2141)					
【100万円】	熊杏会(2400)					
【50万円】	谷川 富夫(50)	山田 和彦(130)	株式会社明和不動産(50)			
【30万円】	井上 俊輔(40)					
【20万円】	清原 由紀夫(82)	医療法人サムアップいちぐちクリニック(40)				
【10万円】	甲斐 広文(85)	中国 克久(71)	増田 武信(20)	山本 美智子(10)		
【5万円以下】	赤星 敦(17)	内野 明德(12)	古崎 新一郎(1)	宮本 真次(7.1)	本島 昭男(28.5)	矢野 恵美子(4)

2. お名前のみ掲載

(五十音順・敬称略にて掲載させていただきます。) ※[] 内の数字は、累計寄附回数(回目)です。

<熊本大学基金>

上田 一生[4]	太田 恵太郎	川口 良彦	佐川 博文[5]	園田 寛[3]	高島 和希[3]
恒富 昶彦[3]	戸塚 誠司[5]	富澤 一仁[7]	鍋倉 康文	波多野 恭行[26]	早野 恵子[6]
春山 康久[6]	福村 佳代子[8]	藤本 晴香	細川 純	矢野 登久男[7]	米村 和広[5]
米村 奈美	医療法人社団清翠会	医療法人是真会瓦屋町歯科	医療法人山田クリニック[6]		
クリタ九州株式会社	合同会社タカムラ	有限会社瀬戸口孵化場[2]			

3. お名前・寄附金額の掲載を希望されなかった寄附者の皆様

個人 38 名、1 法人・団体

REPORT

全く新しい緩和医療・ケアに関する熊本大学公開講座を始めました

令和5年1月5日～1月26日の毎週木曜日、熊本大学病院緩和ケアセンターでは、オンライン公開講座「知っておいて損はない 古くて新しい緩和ケア～医学生にはこんなこと教えています～」を開催しました。この公開講座は、本学の医学部学生への「緩和医療内科学・緩和ケア」に関する講義を一般の方向けに、より分かりやすくしたものです。平成18年(2006年)に成立した「がん対策基本法」では「緩和ケア」が重要な課題の一つとして挙げられているため、その目的や内容が正しく伝わるよう、高校生以上の一般市民の方々等を対象とした「緩和ケア」に関する講座を行い、20名以上が参加しました。

これからも「緩和ケア」の真髄「Quality of Life」に関する講義を継続していきます。



REPORT

学生への食料支援(第6弾)を実施しました

令和5年1月31日、新型コロナウイルス感染症の感染拡大や物価の高騰などにより経済的に困窮している本学の学生を対象に、食料品の無料配付を行いました。今回の取り組みは、本学基金・同窓会へ学生のために活用いただきたいと寄附をいただいた方々と地元企業のご支援・ご協力のもと実施されたものです。

当日は、多くの学生が集まり、インスタント食品、レトルト食品及び調味料等を受け取り、500名の学生を支援することができました。

学生への温かいご支援に心から感謝いたします。



REPORT

企業と連携したプログラミングワークショップを開催しました

教育学部では、熊本市教育委員会が主催する「Kumamoto Education Week 2023」の一環として開催された「toioで体験する『遊びでつくる、学びと未来』」において、企業と連携したプログラミングワークショップを開催しました。本ワークショップは、株式会社ソニー・インタラクティブエンタテインメント、ニューコ・ワン株式会社の協力のもと、実現したものです。

1月21日は、TSUTAYAさくらの森イベントスペースにおいて、会場のTSUTAYAさくらの森の店内レイアウトに模したマップ上でロボットを動かすプログラミング体験を行いました。1月28日は、蔦屋書店熊本三年坂地下イベントスペースにおいて、ロボット教材の開発者によるトークショーの後、プログラミング体験を実施しました。

参加者からは、「思ったより難しかったけど、とても楽しかった」、「自分の力でやってみようという姿勢がみられた」などの感想が寄せられました。教育学部では、今後も地域からのニーズが高い、このようなワークショップなどを継続して実施していく予定です。



当日のtoio開発者によるトークとワークショップの様子が公開されています。右のQRコードからご覧ください。



REPORT

第15回「熊本大学東光原文学賞」学長賞・附属図書館長賞を発表しました

令和5年1月13日に、附属図書館で開催した表彰式で第15回「熊本大学東光原文学賞」学長賞・附属図書館長賞を発表しました。本文学賞は、本学の学生が執筆した応募小説から特に優れた作品を表彰するもので、平成20年度から開催しています。第15回を迎え、記念回となる今回から、従来の大賞を学長賞へ、優秀賞を附属図書館長賞へと変更し、グレードアップした賞となりました。

附属図書館内での一次選考及び学内外の有識者による選考委員会の結果、学長賞1篇、附属図書館長賞3篇を決定しました。(学長賞：小柳詩菜さん(文学部4年)『紡がれし者たち』、附属図書館長賞3篇：井上晃輔さん(文学部4年)『妄執：いつも、どこまで』、植山和哉さん(医学部3年)『Lへの憧憬』、中村優吾さん(文学部3年)『まことの海』)

受賞作品は、令和5年3月に「第15回熊本大学東光原文学賞作品集」として刊行し、希望者へ無料で配布します。また、同附属図書館のホームページでも公開を予定しています。



REPORT

ニューコ・ワン株式会社との共同企画による展示会「熊本城と細川家の明治維新」を開催しました

熊本大学はニューコ・ワン株式会社が運営するTSUTAYA及び蔦屋書店において、共同企画による展示会を不定期で開催しています。

令和4年12月14日から20日まで永青文庫研究センターの今村直樹 准教授と大学院人文社会科学部(文学系)の三澤 純 准教授の研究内容を紹介します。会場では、明治維新という変革が熊本城や細川家にもたらした影響や江戸時代に熊本城内に保管されていた甲冑や古文書の行方について解説したパネルを展示しました。また、展示会期間中の17日には、明治維新後の熊本城に焦点を当てた両准教授によるトークイベントを開催し、本展示会は盛況のうちに終了しました。

